

					英 語											
入試方式		一般A		一般B	入試方式		一般C									
試験日		1/20	1/21	2/10	試験日		2/29									
問題掲載頁		P.77 P.79	P.79 P.81	P.82 P.84	問題掲載頁		P.84～P.85									
解説掲載頁		P.148	P.149	—	解説掲載頁		—									
解答 番号	1	②	②	④	I	問1	当初の希望	(1)	c	(2)	a	(3)	b	(4)	c	
	2	④	③	④		問2	希望	(1)	b	(2)	a	(3)	b	(4)	a	
	3	①	①	②		問3	Italian	a, c, e								
	4	④	②	①			Sushi	b, d, f								
	5	③	④	②	問4	今晚、イタリア料理を食べ、次週スシを食べに行くという結論にいたった。										
	6	①	①	③	II	問1	(1)	a	(2)	c						
	7	②	④	③		問2	(1)	T	(2)	F	(3)	F				
	8	④	②	②	問3	ChatGPTは様々な条件に合致した旅程を提案することができるが、最新の情報を扱っていないため、既に廃業した施設などが提案に含まれる場合がある。このため、ChatGPTが示した情報は、最新のものであるか否かを確認する必要がある、最終案ではなく、素案として扱うべきであるから。										
	9	②	③	③												
	10	①	④	①	III	問1	OpinionA	意見の特徴	a							
	11	③	②	②				意見の概要	ポリ袋のスーパーマーケット販売禁止は良い提案である。環境や海洋生物への被害が大きく、再利用袋の利用を促進でき、ポリ袋による汚染を軽減することができる。小さな変化が地球に大きな影響を与える。							
	12	②	①	④			OpinionB	意見の特徴	b							
	13	③	③	④				意見の概要	ポリ袋の販売禁止に反対である。環境への懸念は理解できるが、ポリ袋は便利であり、禁止することは買い物客にとっては、不便となる。むしろリサイクルと適切な廃棄を促進すべきであり、教育と意識高揚が効果的だと考える。							
	14	⑤	③	④			OpinionC	意見の特徴	c							
	15	④	④	③				意見の概要	スーパーでのポリ袋禁止には複雑な思いである。環境に配慮する一方で、便利さも重要であり、ポリ袋を有料にし、使用量を減らす妥協案も考えられる。便利さと環境のバランスが重要であると考えられる。							
	16	⑦	⑧	①			OpinionD	意見の特徴	a							
	17	⑧	⑤	⑧				意見の概要	スーパーのポリ袋販売禁止に賛成である。環境保護が重要であり、ポリ袋は汚染源で野生動物に害となる。分解が難しく、街や海にゴミが広がってしまう。禁止をすることで汚染減少し、再利用袋の採用促進される。							
	18	⑥	⑦	⑥			問2	I strongly support the ban on selling plastic bags in supermarkets. Plastic bags contribute significantly to environmental pollution, harming wildlife and causing litter in our streets and oceans. Banning them is a crucial step in reducing pollution and encourage the use of more sustainable options like reusable bags. It's a simple yet effective measure that can positively impact the environment. By making this change, we can foster a mindset of responsible consumption and contribute to a cleaner, healthier planet for future generations.								
	19	①	⑨	②												
	20	③	①	④												
	21	④	②	③												
	22	②	③	①												
	23	③	②	④												
	24	④	①	②												
	25	⑤	④	①												
	26	①	③	④												
	27	②	⑤	②												
	28	⑦	④	⑦												
	29	④	②	③または④												
	30	③	⑦	⑤												
	31		②													
	32		⑥													
	33															
	34															
	35															
	36															
	37															
	38															
	39															
	40															
	41															
	42															
	43															
	44															

数 学				国 語									
入試方式	一般A		一般B	一般A	一般B	入試方式	一般C						
試験日	1/20	1/21	2/10	1/20	1/21	2/10	試験日	2/29					
問題掲載頁	P.86	P.87	P.88	P.89 ↓ P.93	P.94 ↓ P.98	P.98 ↓ P.102	問題掲載頁	P.103 ↓ P.106					
解説掲載頁	P.150	P.151	――	P.152	P.153	――	解説掲載頁	――					
解答番号	1	②	②	⑦	③	③	第一問	問一	1	⑤			
	2	①	①	⑤	②	①			2	①			
	3	②	⑧	①	①	①			3	③			
	4	③	②	②	①	③			4	②			
	5	②	⑤	⑥	②	⑤			5	⑤			
	6	①	④	⑤	④	⑤		③	問二	6	②		
	7	②	①	②	⑤	③		⑤		問三	7		③
	8	④	⑤	④	③	③		②	問四		8	③	※順不同
	9	①	⑧	①	④	④		③		9	④		
	10	⑤	⑤	⑥	⑤	②		⑤	問五	10	④	※順不同	
	11	⑥	②	①	①	③		④		11	⑥		
	12	①	①	③	④	④		①	問六	12	私の考える自治とは、自分の意志で自由に決定するという要素が必要である。また、自立した個人がコミュニティを作り、みんなとともに問題に対処するという意識が大切であると考えている。例えば家族、地域、職場などのコミュニティを再生し、貨幣の力を使わないで一人で出来ないことをみなでやるということが必要だと考える。		
	13	①	①	③	③	③		③					
	14	⑨	①	⑨	⑤	③		④					
	15	⑥	①	①	④	⑤		②					
	16	①	①	④	②	⑤		③					
	17	②	①	①	①	④		②					
	18	①	②	②	③	②	⑤						
	19	②	①	①	⑤	④	④						
	20	⑥	③	①	⑤	①	①						
	21	⑥	①(⑤)	①	②	②	③						
	22	②	⑤(①)	①	②	③	②	問七	13	③	※順不同		
	23	③	①(②)	①	③	④	①			14		⑤	
	24	④	②(①)	①	④	④	④			問一		15	①
	25	⑤	①(②)	①	④	③	②					16	②
	26	③	②(①)	①	④	③	②			問二		17	⑤
	27	③	②(①)	①	②	①	⑤					18	④
	28	①	①	①	①	③	②			問三		19	①
	29	②	②	①	④	③	⑤					20	①
	30	①	①	①	④	④	③					21	②
	31	①	②	②	③	③	④					22	②
	32	④	②	③	②		③	23	②				
	33	②	①	①	④			第二問	問四	24	部活動を学校から切り離すことは、「知、徳、体」の伝統的な教育観・成長観から、「知」に偏った教育となってしまう、バランスを欠くものになる恐れがあるから。		
	34	③	⑥	⑧									
	35	②	①	①					問五	25	部活動を通じて友情や師弟関係など多様な人間関係が構築できるが、そういった性格が失われてしまうこと。		
	36	②	②	⑥									
	37	⑤	③	⑥					問六	26	選んだ視点…「全人教育」確かに日本では学校において「全人教育」を理想としてきたが、すべてを学校の中で担う必要はないと思う。地域において先生以外の人から学ぶことは多いし、多様性を重視するなら、むしろ地域で担うことの方が望ましいのではないだろうか。		
	38	③	⑥	⑤									
	39	②	⑦	①									
	40	⑤	②	⑤									
	41	①	②	②									
	42	⑨	①	①									
	43	①	⑦	①									
	44	②											
45	⑤												

解答
番号

化 学							生 物							日本史	
入試方式	一般A		一般B	一般A		一般B	入試方式	一般C				一般A			
試験日	1/20	1/21	2/10	1/20	1/21	2/10	試験日	2/29				1/20	1/21		
問題 掲載頁	P.107 P.110	P.111 P.114	P.114 P.117	P.118 P.124	P.124 P.129	P.130 P.135	問題 掲載頁	P.135 P.137				P.138 P.140	P.141 P.143		
解説掲載頁	P.154	P.155	—	P.156	P.157	—	解説掲載頁	—				P.158	P.159		
解答 番号	1	④(1)	③(1)	③(1)	④(15)	③(15)	第1問	問1	a	内膜		①	④		
	2	①(2)	②(2)	①(2)	①(16)	①(16)			b	マトリックス		③	③		
	3	④(3)	⑤(3)	③(3)	③(17)	②(17)			c	クリステ		①	②		
	4	②(4)	①(4)	⑥(4)	①(18)	③(18)			d	外膜		②	①		
	5	①(5)	②(5)	④(5)	②(19)	⑥(19)			①	オ		③	⑤		
	6	②(6)	⑥(6)	③(6)	④(20)	⑥(20)			②	ウ		①	③		
	7	③(7)	②(7)	③(7)	⑦(21)	⑥(21)		③	アイ		①	③			
	8	②(8)	⑤(8)	③(8)	④(22)	⑨(22)		④	イ(ア)		①	③			
	9	②(9)	①(9)	⑤(9)	⑤(23)	②(23)		⑤	キ(コ)		④	①			
	10	③(10)	②(10)	②(10)	②(24)	①(24)		⑦	サ		②	②			
	11	⑧(11)	④(11)	③(11)	③(25)	⑤(25)	第2問	問3	呼吸の反応は燃焼と異なり緩やかに段階的に行われる(①)。または、呼吸で放出される熱エネルギーが燃焼よりも少ない(②)。				②	①	
	12	⑤(12)	①(12)	③(12)	⑥(26)	④(26)			問1	(a)	体液性免疫		②	④	
	13	①(13)	③(13)	④(13)	⑤(27)	④(27)				(b)	細胞性免疫		③	②	
	14	①(14)	③(14)	②(14)	⑤(28)	②(28)		(d)		アレルギー(反応)		②	③		
	15	③	④	②	②(29)	③(29)		問2	形質細胞(抗体産生細胞)				②	③	
	16	①	②	②	①(30)	①(30)		問3	自己免疫疾患				②	③	
	17	⑦	③	④	④(31)	②(31)		問4	B細胞やT細胞の一部が記憶細胞となり、同じ異物が再び侵入すると二次応答が起こるため。				②	③	
	18	②	④	①	③(32)	③(32)		第3問	問1	①	生産者		③	⑥	
	19	④	③	②	②	①				②	消費者		④	①	
	20	④	③	③	③	④				(a)	光合成		②	②	
	21	⑦	②	③	③	①	(b)			呼吸		③	③		
	22	①	⑥	②	②	③	(c)			燃焼		①	③		
	23	③	⑤	⑦	④	③	(d)			脱窒		③	①		
	24	②	②	⑥	④	③	(e)		窒素固定		③	①			
	25	②	④	④	③	④	(f)		窒素同化		①	②			
	26	⑦	④	③	③	⑤	問3 問4		食物網				⑤	①	
	27	④	③	⑦	④	③			硝化				③	①	
	28	④	⑤	⑤	④	④		ア	二重らせん		①	②			
	29			②	①	②		イ	水素		④	⑥			
	30				④	②	第4問	問1	エ	転写		①	③		
	31				⑤	②			オ	セントラルドグマ		①	④		
	32				②	⑥			カ	コドン(トリプレット)		①	⑤		
	33				④	⑥			(1)	アンチセンス鎖		②	④		
	34				②	①	第5問	問2	(2)	5'-ACC TAT AGC TCT ACA CAT-3'		②	③		
	35				③	④			mRNA	5'-AUG UGU AGA GCU AUA GGU-3'		④	⑤		
	36				⑥	②			理由:変異したコドンが終止コドンとなるため			②	④		
	37								E			④	④		
	38						第6問	問1	(1)	呼吸商 0.7	物質の種類	脂肪	①	②	
	39								(2)	呼吸商 0.8	物質の種類	アミノ酸	②	③	
	40								ア	水晶体		②	①		
	41								イ	毛様体			③		
	42						問2	ウ	チン小帯						
	43							エ	厚く						
	44							角膜	(a)						
						網膜		(e)							
						ア	(k)								
						問3 (50字以内)	(正答例)	桿体細胞は、暗所でもはたらき明暗覚に関係する。錐体細胞は、明所で明暗覚のほか色覚にも関係する。							
						問4 (40字以内)	(正答例)	桿体細胞内でロドプシンの再合成(蓄積)が進み、ロドプシン量が増加して感度が上昇したから。							

総合

a.

①	16.9	②	17.2	③	女性		
④	自分の容姿			⑤	29.8	⑥	60
⑦	20	⑧	18.8	⑨	15	⑩	減少
⑪	40	⑫	3	⑬	30	⑭	21.3
⑮	10	⑯	ダイエットが必要である			⑰	30
⑱	50	⑲	自分の容姿に不満がある				

b. (200字～250字)

⑳	身体イメージがかなりのストレスとして体験されるのは30代と40代が最も多いようであるが、その受け方は異なる。30代では容姿への不満のほうが、40代ではダイエットの必要性のほうがかなり強いストレスとして体験する人が多かった。また20代では「ダイエットが必要である」、つまり体型の理想と現実とのギャップでストレスを体験する人のほうが、容姿でストレスを感じる人の割合より多かった。しかし60代と70歳以上となるとそれが逆転する。 (211文字)
---	---

c. (400字程度)

容姿、体型のどちらにおいても女性の方がストレスを感じる人が多い。男性においても容姿や体型にストレスを感じるという人は一定数いるが、女性ほどではない。

女性の社会進出も進み、ジェンダーギャップの解消が叫ばれて久しいが、それでもこうした調査において性差が見られることから、女性の方が身体的イメージの「理想像」と現実とのギャップにストレスを感じやすいことが明らかとなった。

このことから、理想的な容姿について人々のあいだに根強い固定観念が存在しており、特に女性にその傾向が強いのではないかと考えられる。理想とされる身体的イメージがメディア等によって作り出され、狭く固定化されてしまっていることにより、多くの人々がそれとのギャップを感じてしまうのである。こうした固定化された理想像を相対化し、ダイバーシティとしての多様な身体像をポジティブに受け入れられるような社会の風潮を作っていく必要があるだろう。